

日本ロータリー史

日本ロータリーの祖 福島喜三次

1881年 佐賀県有田町に生まれる
1912年 ダラス・サザンプロダクツ社 支配人
1915年 ダラスRC入会
1920年帰国

Kisoji FUKUSHIMA



日本にロータリー運動をもたらすきっかけを作ったのは福島喜三次 FUKUSHIMA Kisoji です。福島は 1881 年佐賀県有田町に生まれ、一ツ橋大学を卒業後三井物産に入社して、1905 年に渡米し、ニューヨーク、オクラホマ、ヒューストンを経て、1912 年頃、ダラスの三井物産の現地法人サザン・プロダクツ社の支配人に就任しました。既に同社の社長ウィリアムスがダラス・ロータリークラブの会員になっていたため、福島は 1915 年ころ、アディショナル正会員として、ダラス・クラブに入会します。その後、ウィリアムスが、第一次世界大戦の勃発によってドイツに引き上げたので、正会員として 1920 年まで、同クラブに在籍した最初の日本人ロータリアンです。



福島の家は佐賀県西松浦郡有田町本町にある馬渡クリニックの敷地内に、向笠元 RI 会長の直筆で「福島喜三次生誕の地」書かれた石柱が現存しています。

日本ロータリーの父 米山梅吉

1868年 東京で生まれ、少年時代を三島で暮らす
1881年 渡米
1889年 帰国
三井銀行入社
外国より金融制度を導入
常務取締役役に就任
1917年 政府派遣財政経済委員として渡米
福島喜三次との出会い



日本にロータリー運動をもたらすきっかけを作ったのは福島喜三次 FUKUSHIMA Kisoji です。福島は 1881 年佐賀県有田町に生まれ、一ツ橋大学を卒業後三井物産に入社して、1905 年に渡米し、ニューヨーク、オクラホマ、ヒューストンを経て、1912 年頃、ダラスの三井物産の現地法人サザン・プロダクツ社の支配人に就任しました。既に同社の社長ウィリアムスがダラス・ロータリークラブの会員になっていたため、福島は 1915 年ころ、アディショナル正

喜三次の読み方については、「きそじ」「きさじ」の両説があり、RI が保存している東京クラブの創立会員名簿および東京クラブ・ブリテンには、英語で KISOJO と記載されていますが、有田クラブの資料では奥様お話しとして、「きさじ」が正しい記載されています。私が今年の 5 月に現地でお伺いしたところ、有田ではさ行の発音がなまるために、「きさっしゅん」と呼ばれていた模様です。

福島の生家は佐賀県西松浦郡有田町本町

にある馬渡クリニックの敷地内に、向笠元 RI 会長の直筆で「福島喜三次生誕の地」書かれた石柱が現存しています。

米山梅吉は 1868 年東京に生まれ、少年時代を三島で過ごしました。

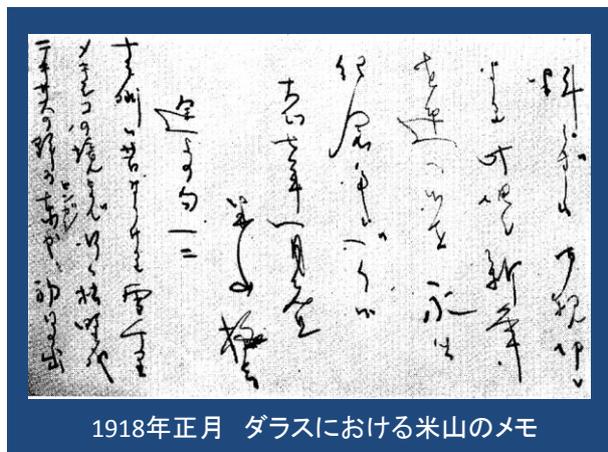
沼津中学を卒業後、家出同然に上京し、苦学をしながら今の青山学院の前身である英語学校に通った後、1881 年に渡米してアメリカの大学を卒業しました。

アメリカ滞在中シカゴ万国博の日本館で説明係を務めたことから、この万国博を訪れたポール・ハリスと顔を合わせた偶然も想像できます。

帰国後浪人生活を続けますが、30 歳で井上馨の紹介で三井銀行に入ります。そこで先進国から新しい金融制度を導入するプロジェクトに携

わったことから頭角を現し、神戸、大阪支店長を経て、常務取締役役に、最終的には三井信託銀行の社長にまで出世します。

そして、1917年10月に目賀田種太郎男爵を団長とする政府派遣財政経済委員の一員として渡米した際、1918年の正月をダラスの福島宅で過ごすことになります。



1918年正月 ダラスにおける米山のメモ

この訪米に際して、1918年正月に米山は、「はからずも、ご親切になり此地に新年を迎え候を永く記念すべく候」と前置きして

「十三州は昔なりけり雪千里」

「メキシコの境まで咲く 枯野哉」

「テキサスの野の東や初日の出」の三句を詠んでいます。

現地駐在員として案内役を務めた福島から、ロータリーに関する話を聞いて、関心を寄せると共に、アメリカのロータリークラブを訪れた可能性も考えられます。

東京ロータリークラブ創立

- 1920年2月 福島が拡大の特別代表を委嘱される
- 1920年7月 福島が再度拡大の委任を受けジョンストンを拡大補佐に任命
- 1920年9月 設立準備会開催
- 1920年10月 東京ロータリークラブ創立
- 初代会長 米山梅吉 幹事 福島喜三次
- 1921年4月 RIより正式認証

1920年1月に帰国した福島は、アルバート・アダムス国際ロータリークラブ連合会会長から、年度内に日本にロータリークラブを設立してもらいたいという拡大特別代表の委任を受けて奔走しますが、年度末までに、創立に必要なチャーター・メンバーの数を集めることができず、期限切れとなってしまいました。

エスタス・スネデコル連合会新会長は、福島に再度委任状を送ると共に、パシフィック郵

船横浜支店長ジョンストンをクラブ拡大の世話役に任命して協力を命じました。

福島から協力を依頼された米山梅吉は財界の面々に声をかけ、1920年9月1日に設立準備会が開かれ、同年10月20日、チャーターメンバー24名が集まって、銀行クラブで創立総会が開催され、東京クラブが誕生しました。なお、RIから正式に認証されたのは1921年4月1日で、登録番号852です。



米山梅吉

1921年 星製薬における例会風景

初代会長には米山梅吉、幹事には福島喜三次、理事に伊東米次郎、樺山愛輔、小野英次郎が就任し、合計28名で、東京ロータリークラブが創立されました。

これは1921年夏、会員である星製薬(後の内外製薬)で行われて例会風景です。

創立当初の東京クラブは会員のほとんどが財界の大御所で占められており、選び抜かれた大企業の社長や重役といった顔ぶれが並んでいます。この最初の人選が前例となって、

戦前の日本のロータリーは功成り名を遂げた財界人が入るクラブという錯覚を生み出すと共に、クラブ会員が当然自ら果たすべきクラブ奉仕活動を事務局員に任せるといった悪い習慣を日本全国に広げる原因を作りだしました。

東京クラブ 50 年史には、もしも福島が中心となってロータリークラブを作っていたら、全く違ったものとなっていたらと記載されています。



1921年11月 ジョンストン送迎会

東京クラブの例会は当初は月一回であり、かつ、たびたび流会し、出席率も悪く、また規約に対する関心も薄かったと言われていました。会費は当初年額 120 円でしたが、1924 年、関東大震災後に 200 円、1929 年 300 円に改定されました。

東京クラブ創立における、ジョンストンの果たした役割は極めて大きく、1921 年、彼の帰国に際して名誉会員に推薦してその功を讃えています。



1923年 大阪クラブ創立



1923年 大阪クラブ例会場 今橋ホテル

福島は僅か二回例会に出席しただけで、1921 年 3 月に大阪へ転勤になります。それを機会に、関西財界人の間にロータリーに対する関心が高まり、英米訪問実業団の一員として渡米した星野行則がシカゴへ赴き、直接、R I 事務総長チェスレー・ペリーと会談して、大阪クラブ設立の意向を伝えました。



1924年 大阪クラブ 会員家族親睦会

日本におけるロータリーの拡大に積極的だったチェスレーは、拡大に関する直接の指導を与えると共に、星野に大阪クラブ設立に関する全権を委嘱しました。帰国した星野は、福島と協力して拡大の作業を進め、1922 年 11 月 1 日に、第 1 回創立準備会を大阪ホテルで開催します。その際集った人は 10 人でしたが、いろいろと奔走の結果、11 月 17 日には、チャーターメンバー 25 名によって、大阪クラブの創立総会が行われます。初代会長は星野行則、副会長

村田省蔵、幹事福島喜三次、会計八代則彦、理事平生鈞三郎、片岡安、木村清です。

RI から、1923 年 2 月 10 日付けで加盟承認され、登録番号は 1349 です。

大阪クラブは、設立当初は月 2 回の例会でしたが、1923 年 8 月からは、今橋ホテルで毎週開かれるようになり、管理運営面の充実、出席規定の遵守、例会の時間励行、クラブ歌の制定、定款翻訳などが積極的に実行されました。これは 1924 年に開催された会員家族親睦会の模様です。



1923 年 9 月 1 日、午前 11 時 58 分、突如として起こった関東大震災によって、死者 9 万人、負傷者 10 万人、焼失 68 万戸、全壊 1 万 1 千戸という大災害となって、首都圏は壊滅的な被害を受けました。

RI の対応は迅速で、震災直後の 9 月 4 日には RI 会長ガイ・ガンディカーから、「RI および全ロータリークラブは深い同情の意を表す。如何なる事であろうと、遠慮なく申しつけられたし」の励ましの電報が届きます。

東京が壊滅的な状態であったため、大阪クラブが仲介の労をとり、福島幹事が「大阪ロータリークラブは、東京の三分の二と横浜のほとんど全域が崩壊した未曾有の災害に対して、日本国民に寄せられた暖かい同情に感謝すると共に、日本国全体がこの不幸に向かって立ち上がるために勇気と行動と決意をみなぎらせており、救援活動も徐々に進み、大阪ロータリークラブ会員も救援活動に然るべく役割を果たしていることを、国際ロータリーを通じて、アメリカ及び他の国に

お伝え願うことを希望します」という電報を RI 本部に打電しています。

9 月 10 日にはサンフランシスコ・クラブより 1,000 ドル、翌 11 日にはニューヨーク・クラブから 1,000 ドルの義捐金が到着し、16 日には RI 本部より大阪クラブに「電報を拝受しました。RI が救援資金として 25,000 ドル寄贈することを東京のロータリアンにお伝えください。東京クラブがこの救援資金を受け取って、救援事業に使用するために、現地の銀行

口座に振り込むのか、東京に送金するのか、それともどこかに送金するのか、もし東京クラブが受取ることが不可能なら、大阪クラブが代わりに受取ってもらえるのか、ご連絡ください」という書状が届きました。

この電報を受取った大阪クラブ幹事福島は、東京クラブの米山に次のような書状を出しています。「大震災に御無事の由、誠に嬉しく存じます。ニューヨーク及びサンフランシスコのロータリークラブより、1000 ドル宛送金して来たこと及びその処分方法に就いては、星野氏よりお聞き及びのことと存じます。今日は又、シカゴの本部より次の通り 2 万 5 千ドル寄付の申込がありました。その電文をお知らせします。電文の意味は明瞭と存じます。私共は米国ロータリアン一同の深厚な同情に感極まって言葉が出ないのであります。どうか、会員其他に諮られ、なるべく速やかに、御返事を願います。此機会が縁となり御地のロータリークラブは勿論、日本に於けるす

震災援助活動

- ・ 9月1日 大震災発生
- ・ 9月4日 RIより見舞いの電報
- ・ 9月10日 サンフランシスコRCより1,000ドル
- ・ 9月11日 ニューヨークRCより1,000ドル
- ・ 9月16日 RIより25,000ドル
- ・ 最終的に世界中のRCより42,000ドルの義捐金が贈られる

すべてのロータリー・ムーブメントが大発展をする様希望して止みません。」

相談の結果、義捐金は東京クラブが受け取ることになり、その旨、シカゴ本部に連絡されました。その後世界中のロータリークラブから続々と義捐金が送られ、その合計は最終的に 74,000 ドルが送られ、その合計は最終的に 42,000 ドル(現在の物価に換算して約 50 万ドル)に達しました。クラブの内訳は、アメリカ 375、イギリス 60、カナダ 40、キューバ 6、メキシコ 4、オーストラリア 3、ニュージーランド、オランダ、フランス、パナマ各 2、ペルー、南アフリカ、フィリピン、ブラジル、ノルウェー、デンマーク各 1、合計 16 ヶ国、503 クラブに及びました。



木下産院建築費	¥ 10,000.00
小学校備品整備	¥ 26,731.60
ロータリーホーム建築費	¥ 37,000.00
殉職警察官遺族援助	¥ 15,429.52

東京クラブは特別委員会を設けて、慎重にその用途を検討し、木下産院の建設、小学校の備品整備、ロータリー・ホーム建設、殉職警察官の遺族に対する援助活動を行っています。なお、義捐金の総額については、資料によって幾つかの異なった集計がでていますが、RI に提出された、1924 年 5 月 26 日の最終報告書は次の通りです。なお当時の為替相場は¥100=US\$49、物価指数 1000 とすれば、現在の価格にして約 1 億円のプロジェクトとなります。

収入	RI より	74,216 円 30 銭
	他の RC、その他	14,944 円 82 銭
	合計	89,161 円 12 銭
支出	木下産院	10,000 円 00 銭
	小学校	26,731 円 60 銭
	孤児院建設	37,000 円 00 銭
	殉職警察官遺族	15,429 円 52 銭
	合計	89,161 円 12 銭



孤児院は東京市の希望を取り入れて、東京クラブ会員清水釘吉の設計施工による 180 坪の鉄筋コンクリート二階建てで、一階には事務室、保母室、裁縫室、調理室、浴室、二階には居室 6 室、集会室を設け、さらにミシン 15 台を備えた、当時としては最新の施設で、Rotary Home と命名されました。1924 年 10 月 10 日に完成し、当日は、大勢の孤児や東京クラブ会員家族が参加して、開館式が催されました。この建物は 10 年後に一部修復されましたが、RI 脱退後、東京市に管理が移されて、

Rotary Home の名称も消え、その後震災によって焼失しました。

なお、この震災によって全ての事務用品、書類、認証状、ロータリー旗を失った東京クラブに対して、シカゴ本部より一切の備品が送られてきました。

杉村広太郎の協力によって会報発行の準備が進んでいた矢先に大震災が起こって、一時中断し



1925年 東京クラブ例会

クラブ拡大

- 1924年 米山梅吉 スペシャル・コミッショナー
- 1924年 神戸RC、名古屋RC
- 1925年 京都RC
- 1927年 横浜RC、
- 井坂孝 スペシャル・コミッショナー
- ソウルRC
- 1928年 大連RC
- 1929年 奉天RC

全国レベルの最初の会合は、1926年に大阪で開かれた都市連合会 Inter-City-Meeting です。当初は、懇親会として準備を進めていましたが、折角集めるのだから協議事項も入れようということになって、

今後、毎年開催するや否や

日本ロータリー連盟設置について

日本各地にロータリークラブを拡大すべきか

定款・細則を邦訳する必要があるか

ロータリークラブの存在や活動を広報する必要があるか

ていましたが、1925年5月から、北島亘によって会報が発行されました。この会報はTokyo Rotary Club Bulletinと名づけられた英文の会報で、外国のロータリアンから高い評価を受けています。

当初日本は、RIによる直轄クラブとして無地区 Non-District Territory でガバナーもなく、クラブ拡大に不便な状態だったので、RIは米山梅吉をSpecial Commissionerに任命して拡大に当たらせました。1924年には大阪クラブをスポンサーとして神戸クラブが、東京クラブをスポンサーとして名古屋クラブが創立され、更に、1925年には京都、1927年には横浜と順次クラブが増えていきました。

次いで、井坂孝がSpecial Commissionerに任命されて、ソウル・クラブが設立され、さらに大連、奉天クラブが設立されました。

1926年 大阪において 最初の都市連合会開催



1928年 第2回太平洋会議 首相官邸

について、議論しました。午前中の会議に続いて午後は大阪見物、夜は大阪クラブの4階で懇親会を行い、家族を合わせて138名が参加しました。

第2回の都市連合会は1927年東京で、第3回は1928年名古屋で、第4回は1929年に京都で開催される予定でしたが、この年に70区が設定されたため、これが第1回地区大会に変更されました。

1928年10月1日から4日間、東京におい

て、第2回太平洋会議が開催され、外国からはサットン RI 会長夫妻を始めとして、109名のロータリアン夫妻、日本からは233名のロータリアンと226名のロータリアン家族が参加しました。アメリカ、ハワイには天洋丸が就航して横浜まで、オーストラリア、ニュージーランドには安芸丸が就航して、神戸までロータリアンを運びました。

なお、第3回の太平洋会議は、1930年にシドニーで開かれて日本からは11名が参加、第4回は1932年にホノルルで開かれて2名参加、1935年のマニラ大会には16名が参加しています。

日本に地区を設ける希望が高まったため、RIに地区設置を申請した結果、1928年7月、朝鮮、満州を合わせて第70地区として、RIより正式承認を受けることとなります。正式認定とはいうものの、当時7クラブしかなかった地域を地区として承認することにはかなりの無理があり、日本の強引な提案にアジア各地のクラブからの反発もあり、RIもしぶしぶ了解したというのが真相のようです。



1929年 第1回70地区大会 華頂会館

1928年7月に第70区が設置され、1929年4月27日に京都クラブがホストして華頂会館および京都ホテルを会場として、第1回地区大会が開催されました。

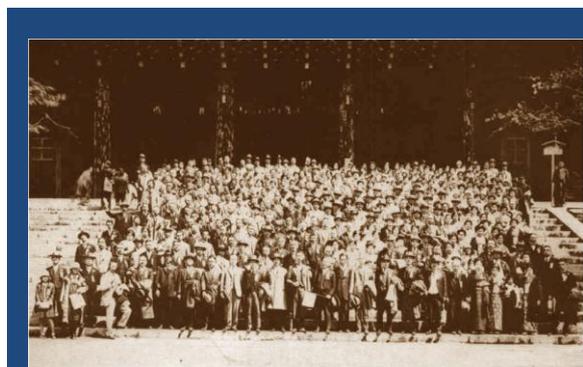
初めての地区大会なので、全く様子が分からず、ホストの京都クラブはその準備が大変だった模様です。夜来の雨も上がって、午前10時に京都華頂会館で開会。京都クラブ副会長シャイベリー夫人のピアノ伴奏による

「Rotary」の合唱に続いて、米山ガバナー、

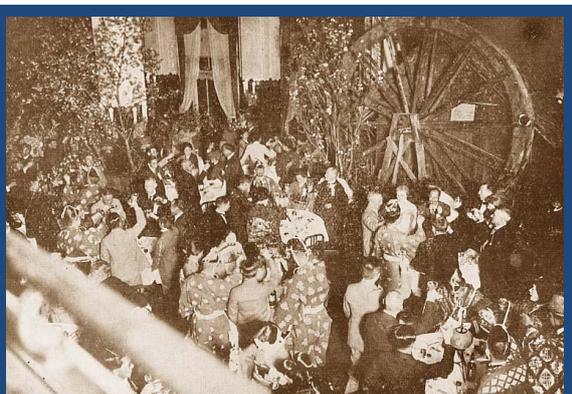
京都市長の挨拶、各地ロータリークラブ代表の現状報告の後、協議に移りました。次期ガバナーに米山梅吉が再選され、次の大会開催地が神戸に決定しました。

東京クラブから提案されていた He profits most who serves best を撤回する案は保留となり、その他7項目が決議されました。当時、日本ではシェルドンの存在はほとんど知られていませんでしたし、ロータリーに profit という言葉はふさわしくないという理由からと推察されます。

午前中の会議終了後、知恩院で精進料理の昼食をとり、午後は島津製作所、歌舞練場を訪れました。夜は京都ホテルで晩餐会が行われました。その席上、米山夫人に薔薇の花を入れた銀の花瓶が贈られるはずが、薔薇の代わりに藁一束が届いて大騒ぎになったというエピソードが残っています。翌日は、エクスカージョンとして京都御所と日活撮影所、嵐山を訪れています。



1929年 第1回70地区大会 知恩院



1929年 第1回70地区大会 京都ホテル



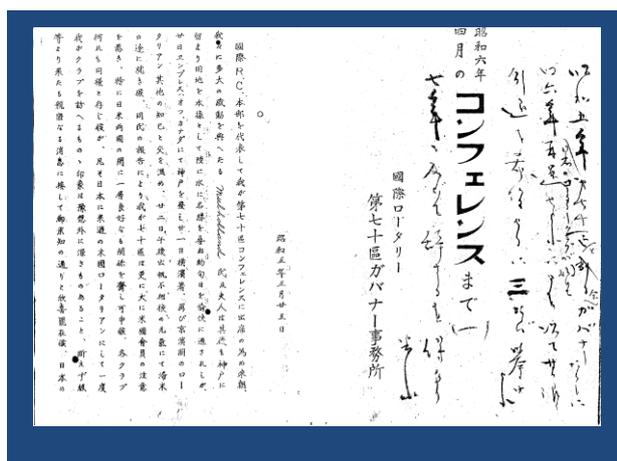
第2回地区大会は翌1930年5月に、RI会長代理としてフランク・マルホルランド氏を迎えて、神戸で開催され、10クラブ、会員家族合わせて437名が出席しました。この席上で、米山梅吉がガバナーに三選されました。

奉天クラブから、日本語のロータリー・ソングを作ること、奨学金制度を作ること、ガバナー月信を発行することなどが提案されました。大会2日目には吉野丸による瀬戸内海巡航がおこなわれました。



1930年にロータリー創立25周年を祝う国際大会がシカゴで開催されました。日本を代表して出席した貴族院議長徳川家達公爵(東京クラブ名誉会員)が儀仗黒騎隊による送迎をうけた上、大会のスピーカーとして「民族の勃興」と題する演説を流暢な英語で行って、大きな感銘を与えたと言う記録が残っています。

国際大会参加に関しては、当初、大会に代表者を送ることも、大会の意義も判らなかったため、日本からの大会参加は1924年のトロント大会が初めてです。その後の大会には、RI脱退の1940年ハバナ大会まで、平均2-3名が参加しています。最高記録は1937年ニース大会の12名です。



奉天クラブの提案を受けて、1930年5月より、手書き謄写版刷りのガバナー月信が発行されました。

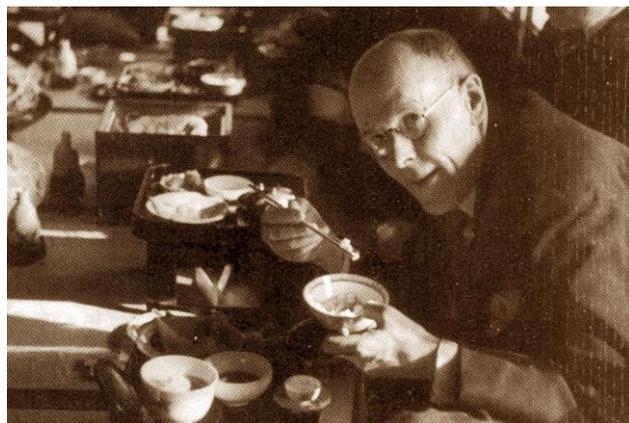
井坂ガバナーからガバナー月信が書かれたという説がありますが、これは間違いで、米山ガバナー2期目の終わりからガバナー月信がだされています。

1930年5月から1931年3月までは「コンフェレンスまで」、1931年4月から年6月までには「コンフェレンスのあと」という副題がつけら

れています。なお、表紙にはガバナーに三たび選ばれたことが、米山梅吉の自筆で書かれています。

実はこのガバナー月信を坂本豊美パストガバナーが発見された直後に、私が米山記念館を訪れて、旧漢字を一つ一つ拾って、それをデジタル化する作業を行った経緯があります。

ブの 75 周年を記念して株分けされました。



芝公園 紅葉館で昼食

なお、紅葉館での料理は次のように純日本式でした。

御作り身	鮪、平目、胡瓜、山葵
御吸い物	すっぽん、葱、生姜
御蓋物	牛肉煮込、玉葱、隠元豆
御焼肴	鯛、生姜
御間い肴	あい鴨、鰻、百合根
御鉢肴	車海老、青唐辛子
御留椀	若鶏、人参、筍、青豌豆
御飯	米飯、新香
御水菓子	苺

歓迎会の後、三越百貨店、御木本真珠を訪問し、夕刻、帝国ホテルに戻って衣装換えの後、午後 6 時から、東京會館 4 階で行われた、東京 RC、横浜 RC 主催の歓迎晩餐会に出席しました。

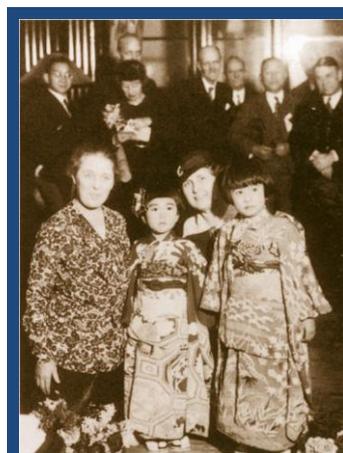
当時の記録によると、この歓迎晩餐会の模様を次のように紹介しています。

食堂は桜咲く隅田川の春景色にしつらい、洋風の窓や戸は日本の提灯で隠し、三囲神社を模した建物まであり、別室では日本古流の茶室で抹茶の接待が行われ、一行は此の接待に充分満足気であった。晩餐会はロータリー・ソング(Rotary my Rotary)で始まり、食事中日本の三曲合奏および声楽家の独唱があり、一方舞台では見事な桜踊りがあった。

ポール・ハリスは立って、君が代のオーケストラの演奏の中に天皇陛下のためにトーストを捧げた。又日本側からは東京 RC の名誉会員前首相齊藤実子爵が米国大統領の健康を祝し、その間米国歌が演奏された。

デザート・コースに入って東京 RC 会長鹿島精一が、又横浜 RC の副会長ソマーラーがそれぞれ会を代表して挨拶し、ついで米山梅吉が歓迎の挨拶を述べた。これに続いて名誉会員徳川公も感想と挨拶を述べ、次にヒル RI 会長の謝辞があり、最後にポール・ハリスが感激にみちた挨拶をした。

歓迎晩餐会終了後、午後 9 時 30 分、東京駅発の列車に乗車し、翌朝 7 時 50 分、京都に到着。



夜行列車で京都着

新大阪ホテルで歓迎昼食会

夜 神戸港よりマニラへ

京都ホテルで朝食の後、車で京阪国道を通り、新大阪ホテルへ向かい、午後 1 時より開会された、京阪神 3RC 連合の歓迎会に参加しました。

この歓迎会には、京阪神の他、岡山、門司、名古屋、ハルピン等のロータリアン 130 名が参加しました。ロータリー・ソングに始まり、来賓紹介、村田ガバナーの歓迎の辞の後、ヒル RI 会長、ポール・ハリスの答辞がありました。席上、ヒル会長には七宝香炉、ポールには

ブロンズの胸像が贈られました。晩、車で神戸に向かい、プレジデント・クーリッジ号でマニラに向けて出航しました。

1922 年にヨーロッパで最大のロータリークラブ数を擁する、イギリスとアイルランドが RIBI

ロータリー日本化の流れ

- 1922年 RIBIの結成
- 1931年 満州事変
- 1933年 国際連盟脱退
- 日本、満州、朝鮮でRIJM結成の動き

Rotary International British & Ireland を結成したことから、世界各地で、RI の管理から離れて、地域分権を求める気運が高まってきました。日本も、これに倣って、日本、満州、朝鮮で RIJM Rotary International Japan & Manchuria を結成しようとする [ロータリーの日本化] が真剣に論議されるようになりました。

当時、韓国と台湾は日本の統治下にありましたから、問題はないとしても、満州が 70 地区

区に含まれていたことは、RI が満州を日本と一体のものとして認識していたものと考えられます。

1931 年の満州事変を契機として日米間の雲行きは怪しくなり、1933 年の国際連盟脱退によって、それは決定的なものになります。その経過の中で、ロータリーの本部がアメリカにあるという理由で、陰に陽に、軍部や官憲からの圧力を受けることとなります。ロータリーはアメリカのスパイであるとか、フリーメーソンであるといった批判に対して、ロータリーのモットー Service above self は滅私奉公であると反論したという記録が残っています。

そういった批判を避けるために、RIBI のように RI の中央集権の組織から離れて、国家単位で管理

してはという意見がロータリアンの中で起こったため、1935 年に京都で開催された地区大会で RI 会長代理として出席したサットン元 RI 会長にその旨を申し入れましたが、色よい返事は貰えませんでした。

1935 年京都で開催された地区大会では、新作の日本語のロータリー・ソングとして、「奉仕の理想」と「われらの生業」が発表されました。

1936 年に神戸で行われた地区大会では、ロータリーの日本化に関連する提案が噴出して、

「紀元 2600 年に日本で国際大会を開催する」「地区の特殊事情に応じ、ロータリー精神の普及徹底を期するため、RI の機構を地区単位に改めるよう希望する」という決議が採択されました。

「アメリカのロータリーにおける東洋人差別是正」という案件が提案されましたが、たまたま神戸の直木太一郎が提出した「大連クラブのロータリー宣言を 70 地区のロータリー宣言として採択する」という動議を巡って大混乱になりました。米山梅吉は、国際ロータリーにおいて決定した [ロータリーの綱領] は一言一句の変更は許されないと述べたのに対して、京都クラブの会長田辺隆二は、それは英文のことであって、その精神を日本語で表



1935年 京都地区大会



1936年 神戸地区大会

すものがあったとしてもよいと反論し、村田省蔵パスト・ガバナーは、この大連宣言を推奨したのは自分であり、これは立派なものであるから、これを英訳して、[ロータリーの綱領]を改正するように、RI本部に提案したらよいと述べました。

結局、大阪の里見純吉の提案によって、この宣言は、ロータリーの綱領の変更ではなく、内容を補足するものとして、大会宣言することで収拾されました

この[大連宣言]は、大連クラブの古沢丈作が、[ロータリーの綱領]と[ロータリー倫理訓]の真髓を、格調高い日本語で適格に表現し、1928年に発表した、最初のドキュメントとして、高い評価を受けています。

<大連宣言>

須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。

成否を日々に先立ち退いて義務を尽さむことを思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せむことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。

あるいは特殊な関係をもって機会を壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乘じ巨利を博す、これ吾人の最も忌むところなり、吾人の精神に反してその信条を紊るは利のため義を失うよりはなはだしきは無し。

義をもって集まり、信をもって結び、切磋し琢磨し、相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。しかれども党をもって厚くすることなく他をもって拒むことなく私をもって党する者にあらざるなり。

徒爾なる角逐と鬭争とは世に行なわねばならず、協力をもって博愛平等の理想を実現せざるべからず、しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す吾がロータリーの崇高なる使命ここに在り、その存在の意義またここに存す。

アメリカに本部があるという理由から、ロータリー運動に対する官憲の介入は厳しさを増して、

日満ロータリー連合会

- スパイ嫌疑を受け、例会が監視下におかれる
- 1936年 神戸地区大会で地区単位の管理を要望
- 1938年 比叡山の地区協議会で、RIから離れて地方自治分権を決議
- 日満ロータリー連合会原案策定 (宮協案)
- 1939年国際大会に日満ロータリーの機構改革 (RIJM) を提案 議案39-9

例会が監視下におかれると共に、米山梅吉や地区幹事の芝染太郎は再三特高の取り調べを受けたと言われています。この嫌疑を晴らすために、RIの中央集権化から離れて、日本独自の地方的自治分権組織を作らざるをえないという結論に達しました。すなわち日本ロータリーの恣意的発想から日満ロータリー連合会が生まれたのではなく、日本のロータリーをどうしても残すためにはこれ以外に方法がなかったからです。このころから国旗掲揚と国歌斉唱の習慣が生まれました。

1938年比叡山で開かれた地区協議会において、第70区がRIの中央集権組織から離れて自治権を持つという提案を来るべき国際大会に提出する準備を整えるために、研究委員会を組織する、という提案が、東京クラブからだされました。

この提案には米山梅吉も賛成して、自ら提案主旨の説明をし、異議なく採択されました。これに

基づいて、クリーブランド国際大会に提出するために、宮脇富パスト・ガバナーを中心とする研究委員会によって作られたのが、俗に「宮脇案」と呼ばれる、日満ロータリー連合会の原案です。70 地区の幹事、芝染太郎が特派代表として、同年開催されたクリーブランド大会に出席して、RI との交渉に当たることになりました。

(宮脇案) 日満ロータリーの機構

日満ロータリーの統括機関として、新たに評議員会を設け、その評議員会は左記地区内の会員より選出される 9 名の評議員(地方小区代表員と呼ぶ)及び日満ロータリー会長と、前期会長及び他の第 70 区の役員(副会長、幹事、会計)を以って組織し、日満ロータリー会長は評議会会長となる。(但し、幹事は議決権を有せず)

評議員選挙区域 上記 9 名の評議員は、左記地区内のクラブ会員より選出する。(1)北海道、樺太 (2)関東、東北 (3)中部 (4)関西、中国 (5)九州 (6)台湾 (7)朝鮮 (8)満州

評議会の権限 この評議会の権限は、日満国際ロータリーの定款並びに細則の定める処により国際ロータリーの事務並びに、資金を統括、管掌する。「但し当該会計年度の日満ロータリーの予算収入を超過する負債を為すを得ず」とする。

役員選挙方法 日満ロータリーの役員は会長、副会長、幹事、会計及び 9 名の地方小区ロータリー代表員全部であって、会長は細則の規定により指名し、毎年の区大会に於いて、有権代議員の投票過半数を以って選定し、他の役員は細則の定める処により、指名の上選挙する。区大会に於いて選挙されし会長の姓名は、国際大会に於いて、RI の役員として選挙を受けるため、中央事務局に通告する。

定期大会と臨時大会 区大会は毎年 4 月 15 日より 5 月 15 日に至る期間内、予め評議会の決定したる日時と場所に於いて開催する。但し特別の事情発生の場合は、評議会は予定の日時と場所を変更することを得る。臨時大会 不測の事情発生の場合は、会長は評議会過半数の承認を経て、臨時大会を召集することを得る。

区大会の組織 区大会は各倶楽部より選出したる代議員を以って組織され、その選出代議員の割合は各倶楽部 1 名とし、なお毎年 4 月 30 日現在の会員数を基準として会員 50 名に対し 1 名の割合を以ってし、過半数の端数のあるときは更に 1 名を加ふることとする。

代議員の出席 各倶楽部は必ず適法に任命された代議員を区大会に出席せしめねばならぬこととし各代議員は大会に於いて各決議問題に対し一票の投票権を有するのである。

無所属代議員 なお、催促の制定により区内に於ける日満ロータリーの各役代表者及び各元会長及びガバナー(但し現在何れかの倶楽部会員たるを要す)は無所属代議員として各大会に出席し提出の各決議問題に対して 1 票の投票権を有し得るものとす、と規定してある。

日満ロータリー執務章定 「区内各倶楽部の執務は評議会の一般的監督の下に置かれるものとし、評議会は RI 理事会に対し義務を負うもの」という規定により日満ロータリーの対内及び対外執務関係が明らかにされてある。

定款と催促の修正 日満ロータリーの定款と細則に関する修正は、区大会の3分の2の同意により之を行うことが出来るものとして、その修正案は2月1日迄に区大会幹事宛に送達されねばならぬと規定されている。

会費及び使途 日満ロータリーの会員は毎半期金5円を会費として日満ロータリー本部に納付する。而してその使途及び管理は評議会の権限内に対し

1. 国際ロータリーに対しては毎半期双方の協議の上適当と思惟される金額を支払って種々なる斡旋に酬い。
2. 国際ロータリーより一切の支弁を受けることなく独立会計となる。

1939年に来日したRI副幹事のポーターは、東京、横浜で意見交換をして、宮脇案に一応の理解を示しましたが、その実現の難しさを説くと共に、急いで行動しないようにという忠告をしています。

ポーターの忠告に従って、東京クラブは、芝染太郎幹事を横浜、神戸、京都、大阪に派遣して、意見を集約し、次の結論をだしました。

1. 国家を基調にした機構は、1927年のオステンド大会で否決されているので、実現困難である。この決定を無効にしたとしても、日満を一つの国家単位とするには数年かかる。
2. 日満の現状を正当なものと認める者が増えているので、この希望は承認されると思うが、そのためには、現在の70地区を数区に分割して、これを合体したものを一つのロータリー地域として、自治管理する方が良い。この方法は既にイギリス、フランスで認められている。

この意見に従って、ガバナーや諸クラブ会長が東京に集まって協議した結果、この案を取りまとめて、1939年の別府の地区大会に提案することになりました。さらに、この別府大会の決議に基づいて、芝染太郎は特派代表として、同年開催されたクリーブランド大会に出席して、RIとの交渉に当たるわけです。

この第70地区からの「RIJM設立」についての提案は議案39-9として6月19日の立法委員会に提出されました。芝は渡米後、この提案の取り扱いについて、チェスレー・ペリー事務総長やRI理事と何回も非公式会談を重ねましたが、賛否両論がでて結論は得られませんでした。特にアルゼンチン、ペルー、ブラジルはこの提案を機会に、南米における中間管理組織を作ることを考えていたため、RIはこの提案は日満だけの問題ではなく、RIの根本を揺るがす問題だと考えました。もしもこの提案が審議されれば、大会が紛糾することは必至であるとみたRI理事会は、この提案を責任を持って理事会が対処することを確約して、芝に撤回を要請したので、芝はそれを受け入れました。

出発に先立って、米山梅吉はRI会長に宛てた次のような親書を、芝に託しています。

まず前会長ウイル・マーニャの「歴史と風俗と習慣とは各国悉く異なれり。故にこれを統一的に取り扱わんとするのは誤りにして、思想上の傾向に適合せしむべく各々自由ならしむべし。」の言を引用し、「東西欧亜では甚だ風俗習慣が違っているが、ロータリーの目的は明白であるから、これを忠実に実現出来れば、他の細項は各区の自治に任せばよいので、ロータリーの開祖ポール・ハリスさえ、ロータリーの到達すべき運命に適応せんとせば、ロータリーは常に徐々に進化し、又或る場合には急進的改革をも必要とすると言っている。大会参列の諸君はこのRI機構の進化変遷に必要な注目し、第70区が提案する機構改正に虚心坦懐検討されんことを希望する。余は急進

的改革を希望するのではない。ただその進化を促進し、将来の宿望に適応させる必要を認めるものである。隣邦第79区ガバナー、フォン・セク博士は最近死去したが、その数日前余の所論に共鳴し、一緒に支那のロータリー拡張と永久性のために共同してつくしたいと述べた。」と結んでいます。

この第70地区からの「RIJM設立」についての提案は議案39-9として6月19日の立法委員会に提出されましたが、その際、芝染太郎は米山梅吉から託された前述の書簡を読み上げ、その全文が大会議事録に発表されました。

以上のような経緯をたどって、この提案はRI理事会の付託となり、1939年7月から、日本の第70区が第70区、第71区、第72区に分割されて、日満地区46クラブが、自治地域制度の適用を受けることとなります。

日満ロータリー連合会規約

第1条 日本及び満州所在左記三区ロータリー総括機関として日満ロータリー連合会を組織す。

東部(第70区) 本州東部(福井、岐阜、三重を含む以東)、北海道、樺太

西部(第71区) 本州西部(滋賀、京都、奈良を含む以西)、四国、九州、台湾

鮮満(第72区) 朝鮮、満州

第2条 本会会務の執行は之を委員制度となし左記役員を以って構成す。

会長1名 委員7名

委員は区監督3名、前任監督3名、前任会長1名を以って之に充つ。各区に於いて区監督を選出したる時は直ちに之を本会に報告し、本会は之を国際ロータリーに通告して其の役員たる手続きを完了するものとする。

第3条 会長は本会を統括し委員会の議長となる。

第4条 会長は連合会に属する区内ロータリー会員中より委員会之を選出する。其の任期は1年とする。但し再選を妨げず。会長選出の時期は、連合大会開催の場合には其の会期中然らざる場合には郵便投票に依るものとする。

第5条 本会に幹事及び会計を置く。会計は名誉職とする。

第6条 本会は左記事項を処理する。

1. 連合会内各区の連絡
2. 連合会内各区と国際ロータリー事務局との連絡
3. 連合会内各区共通会計の統制管理
4. 新設倶楽部承認及び登録手続

第7条 本会内各倶楽部は本会に対し其の会員数に応じ会員1人宛年額17円を支払うものとする

第8条 新倶楽部は入会金200円を本会に支払うものとする。

第9条 委員会は必要に応じ日時及び場所を定め会長之を召集する。2名又は2名以上の委員より委員会開催の請求ありたる時亦同じ。委員会の定数は委員4名以上とする。

第10条 本会は年1回連合大会を開催する。区大会は之に合流することを得。

第11条 本会は年1回連合協議会を招集する。

付則

第1条 本規約は昭和14年7月1日より有効とする。

第2条 本規約実行初年度に限り本会委員の構成並びに会計に関し特別を設けることを得。

第3条 本会は毎月1回連合会会報を発行する。之に要する費用は各倶楽部に於いて別に分担するものとする。

日本からの提案を受けて、RI 理事会が認めた規約は次の通りです。

1. 3地区の統括機関として日滿連合会を設け、会長1名、ガバナー3名、パスト・ガバナー3名、前会長1名、合計8名の委員をおく。
2. 会長はRIの承認を要せず、委員の任期は1年とする。
3. 会長の選挙は3地区連合大会でおこなう。
4. ガバナーの選挙は地区大会で行い、RIに通告し、従来と同じく国際大会で選任する。
5. ガバナーの任務は従来と同じとする。
6. RIへ送金する4ドル50セントは、半額を連合会に残して、その費用に充てる。
7. 1939年7月から実施する。



1940年5月 日滿ロータリー連合大会 横浜

第1回日滿ロータリー連合大会は、1940年5月、横浜で開催され、会長には米山梅吉が選ばれましたが、これが戦前の日本ロータリーの最後の大会となりました。この大会では、ロータリー綱領の邦訳を改めること、国名をニッポンに統一すること。皇軍への感謝、傷病兵慰問などが決議されました。



芝 染太郎

- 1870年愛媛県生まれ
- 1894年ハワイに移住
- 1905年ハワイ新報社主
- 1916年帰国
- 1921年ジャパントイムス社主
- 1924年東京クラブ入会
- 1937年70地区幹事
- 1938年日滿ロータリー連合会幹事
- 1942年晴耕会創立
- 1949年逝去

会し、米山梅吉との親交も厚く、1937年に第70地区の幹事に就任し、クリーブランド大会に特派代表として出席しました。

彼の著作「\$の国アメリカ」には、日滿ロータリー連合会の交渉にあたって、友人への土産である日本刀を携えてRI本部を訪れて剣舞を披露して、もしもこの提案が通らなければ切腹も辞さない

なお、これはRIBIの規約を模したものであり、現在のRIBIもこれと似た中間管理組織による運営を行っています。

以上のような経緯をたどって、日滿地区46クラブが自治地域制度の適用を受けることになり、1939年7月から、日本の第70区が第70区、第71区、第72区に分割されました。

第70地区・・・名古屋以東の20クラブ

第71地区・・・西日本、台湾の19クラブ

第72地区・・・朝鮮、満州の8クラブ

ここで、特派代表として、クリーブランド大会に出席して、RIとの交渉に当たった芝染太郎について触れてみたいと思います。

芝は1870年愛媛県宇和島近郊で生まれ、1894年に単身ハワイに移住しました。ジャーナリストを志してハワイ新報に入社し、1905年には同社を買収して社主になりました。

1916年帰国しジャパントイムスに入り、1921年には買収して同社の社主となりました。

関東大震災直後に東京ロータリークラブに入

と語ったと記載されています。その気迫が功を奏してか、RIが日満ロータリー連合会の存在と自治地域の適用をしつし黙認したというのが真相のようです。

芝は1938年発足した日満ロータリー連合会の幹事を務め、RI脱退とともに茨城県鹿島に移り住み、地元で「晴耕会」というロータリークラブと同じような組織を作って悠々自適の生活を送り、1949年に79歳で逝去しました。

この時期から、ロータリアンの涙ぐましい努力にもかかわらず、ロータリーに対する批判は収まるどころか、ますます激しさを増していきます。クラブ旗の隣に国旗をかかげ、月初めに国歌を歌うという、現在では極く普通の例会風景も、実は国家への忠誠心を示すために考えられた、この当時の歴史的な名残だといわれています。

ドイツでは42クラブ、オーストリアの11クラブ、イタリアの34クラブが解散し、日本でも解散を真剣に考えるクラブがでてくる一方で、弾圧による解散に先立って、国際ロータリーから自発的に離脱し、別組織として、その精神性を維持する方法を選ぶべきだという意見がでてきて、クラブ間の調整が取れない状態になってきました。

日本ロータリーのRI脱退

1940年

- ・ 8月8日 静岡RC
- ・ 8月12日 大阪RC
- ・ 8月19日 岡山RC
- ・ 8月21日 京都RC
- ・ 9月4日 日満ロータリー連合会のRI脱退
- ・ 9月11日 東京RC
- ・ 9月25日 七曜倶楽部連合会設立

日満ロータリー連合会は緊急会議を招集して、クラブ存続の決議をしましたが、8月8日に静岡RCが、引き続いて、8月12日に大阪RC、8月19日には岡山RCが解散します。

その後、8月21日には京都RC、その後も広島、高知、金沢と解散が続いたため、9月4日、日満ロータリー連合会は総会を開催して、RIから脱退して、独自の日満連合会を組織することを決定し、その創立委員25名を指名しました。

東京RCが解散を決定したのは、9月11日のことであり、米山梅吉は、重い足を引きずるようにしながら壇上に立って、次のような、最後の挨拶をしました。

拝啓 時下各位益御清祥慶賀此事に奉存候

陳者各位と共に終始其発展に努力致し來り候ロータリー運動も一旦廃止の己むを得ざる事態に立到り候こと誠に今昔の感に堪へざる次第に候

多年間断なき無数の會合に於て舊ロータリー倶楽部が重きを會員各自の職能に措き往來親睦に手を握りて互に相勵まし陰に陽に奉仕の一念を以て事に従へる為過去二十年ロータリーが清新にして而かも活潑なる社交機關として世の信認を博せること偶然にあらずと存候

其発展に於ても日満四十八市を網羅し軀ては百倶楽部の陣容を整へ恰も東亜勃興の新機運に参して大いに國際正義の達成に資するを得んことを庶幾し昨年既にクリーブランドに於けるロータリー世界大會に向ひ吾が主張を聲明しロータリーの組織を改め國家單位の機構に礎石を置かんとし益多望なる前途を豫期せる際不幸なる影響を受け意外の蹉跌を見るに至れること此上なき恨事と申ぐべく御同様残念に堪へざることに候

何れにもせよ國際ロータリー離脱のことは豫て其組織關係に更改を企圖致居候ことにも有之旁日満ロータリー倶楽部解散の決行は乍遺憾誠に己むを得ざりし次第に候

抑も奉仕の理想に基き各自の職能により國家社會に貢獻し公益の増進にカメ外は以て國際の諒

解を正しくせんが為めに實業及び専門職業人たるロータリアンが努力多年に亘り會員間に醸成したる特殊の熱情は一度ロータリアンたりしものの永く保持して用を為さんとする處にして是即ちロータリーの後身として新社交俱樂部を創設し従來の意義ある交友關係を繼續致し度き希望に燃ゆる所以に候

先般臨機に委員を擧げ協議の結果假定致候規約案は曩に御手許へ差上置候通りに候右御準用の上今や適宜御発會被成候て然るべき時節と相成候やう存候

大阪に於ては既に規約を設け金曜會を創立各地にも夫々類似の御催あり且又一二直ちに俱樂部の組織に出てんとする處も有之ことに承知致候

斯くて所在に新組織成立致候上廳て一定の名稱及び相互の連繫等に付き工夫を要する時機不遠到來可致存候へ共従來の日滿ロータリー聯合會は既に全く解體、月刊機關誌も廢止のことに致し目下残務の整理に従事罷在候自然の成行は御承知被下候通りに候

凡そ忠良なる日本國民として臣道實踐の方途は多々可有之支那事變以來舊ロータリーの對外活動に於ても之を見たることに候へ共今や純日本主義に創設さるべき吾等の新組織は更に大に其主義精神を發揚して國家社會に貢獻し殊に現下の非常時局に即応する為め各自の職場に於て大政の翼賛に寄興致すべきこと必然と存上候以上貴意を得るに當りロータリー過去の歴史を回顧し感慨無量文辭悉きず偏に各位の御自重を所り候

昭和十五年十一月十六日

敬具

米 山 梅 吉

9月11日、日滿連合會は最初の會合を開いて、既に大阪で作られていた定款を基に協議して新定款を起草し、9月25日の會合でこれを採択し、この會の名稱を「七曜俱樂部連合會」としました。

各クラブのRI脱退状況および再組織の状況は次の通りです。

クラブ名	脱退年月日	再組織名
静岡	15・8・8	木曜會
大阪	15・8・12	金曜會
岡山	1940・8・19	水曜會
京都	1940・8・21	水曜會
広島	1940・8	火曜會
高知	1940・8	火曜會
金沢	1940・9・1	水曜會
今治	1940・9・5	木曜會
神戸	1940・9・15	木曜會
盛岡	1940・9	木曜會
名古屋	1940・9	同心會 → 火曜會
函館	1940・9・4	函館職能協議會
帯広	1940・9・5	木曜會
小樽	1940・9・7	火曜會
新潟	1940・9・7	火曜會

東京	1940・9・11	水曜会
旭川	1940・9・23	金曜会
四日市	1940・9	木曜会
郡山	1940・9	金曜会
仙台	1940・9	火曜会
横浜	1940・9	同人会
札幌	1940・11・20	札幌職能会
西宮	1940・12・16	火曜会
福岡	1941・7・1	清和会
釧路	1941・10・10	釧路職域懇談会



東京水曜会は1940年11月15日に190名が入会して、12月4日に帝国ホテルで創立総会を開き、大阪金曜会は99名が入会して11月15日に創立総会を開きました。その他の各クラブもロータリー・クラブの名前こそ外したものの、各曜会と名を変えて、従来のロータリー・クラブ時代と同じように、毎週一回の例会を開いていました。

戦争が始まって、物資の欠乏と共に、弁当持参や、誕生祝いのケーキの代わりに水飴を贈った(東京クラブ)というエピソードが残っています。その後例会場の軍接收、空襲による破壊などによって、集まる場所を転々と変えたり、例会が休会となることもたびたびありました。

物資統制のため、週報の発行が困難となり、年に数回しか発行されなかったという記録も残っていますし、大阪金曜会では、月初めの例会では宣戦の詔勅が朗読され、卓話も統制経済、戦債、兵器、食料問題、大政翼賛会の話が多かったそうです。

ロータリーの組織が壊滅したにもかかわらず、その活動が継続されたことは驚異に値する事実です。戦前の日本のロータリアンの心にロータリーの理念が理解されていたが故、組織がなくなっても、運動自体は何ら変ることなく継続されていたのでしょう。ただしこのような状況下では、ポール・ハリスやシェルドンの奉仕理念を語ることは不可能であり、儒教や報徳講などの東洋的思考からロータリーを語らざるを得ませんでした。その名残が現在にも引き継がれているように思われます。

終戦直後の1946年、日本ロータリーの創始者である米山梅吉と福島喜三次が相次いでこの世を去り、翌1947年1月にはポール・ハリスも78才の天寿を全うします。

1946年1月、東京水曜クラブの小松隆会長が、GHQのバラード大佐に託したR I 復帰に関する要望書が、ラブジョイ事務総長を経てR I 理事会に提出されましたが、5月24日に、「日本の希望は充分理解するが、現在の時点では確答はできない。RIの記録として残しておく。」という返事をもらいました。1947年1月に、大阪金曜クラブ飯島会長も、同様な要望書を元会員 May を通じてRI本部に送りました。

1949年9月 東京クラブ 復帰チャーターナイト



1947年 3月 18日に東京の工業クラブでR I 復帰連絡協議機関設置のための懇談会が開かれ、7月 16日に第1回復帰協議会が開かれて、日本全国から14クラブ、32名の有志と、駐留軍のMossが東京工業倶楽部に集まって協議をしました。

1947年 7月の記録によると、当時各曜会と名称を変えて例会を続けているクラブは18であり、その会員数は1,050となっています。ロータリーの名称こそ使えなかったものの、

各曜会の例会には、駐留軍として在日していた連合国のロータリアンが再三訪れ、盛会であったと言われています。

1948年 7月 14日に、第2回復帰協議会が開催され、16クラブから40名が参加しています。

1948年 9月 1日、インドに駐在していたRI 中央アジアの副事務総長ジョージ・ミーンズが、日本を訪れ、東京水曜会の例会に出席して、小松復帰協議会会長から、日本の実情を聞くと共に、大阪金曜会やその他の七曜会を訪れて、日本のロータリークラブが名前こそ変えながらも、脱退以前と変わることなく例会を続けている状況をRIに報告します。

1949年 3月 9日に再び日本を訪れたミーンズは、RI 理事会が同年6月の国際大会までに日本のロータリーを復帰させることを決定したことを知らせます。この吉報を受けた協議会は、このことを各クラブに知らせると共に、その準備にかかり、東京水曜会は3月 16日に解散して、3月 23日にチャーター・メンバー157名で創立総会を開催し、3月 29日にはRI から以前の登録番号855のままで認証を受けました。これに続いて京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌の7クラブが順次R I に復帰し、第60地区として戦後の日本のロータリー運動が再開されることとなります。

東京クラブのチャーター・ナイトは同年4月 27日に開催され、マッカーサー元帥(後に東京クラブ名誉会員)や吉田茂首相からの祝辞が披露されました。

RI 復帰状況は次の通りです。

クラブ名	会員数	復帰承認	クラブ名	会員数	復帰承認
東京	189	49. 3. 29	京都	57	49. 3. 29
大阪	68	49. 4. 13	神戸	46	49. 4. 13
名古屋	47	49. 4. 13	福岡	33	49. 4. 22
札幌	45	49. 5. 2	横浜	38	49. 7. 27
西宮	20	49. 8. 19	高知	24	49. 8. 19
今治	20	49. 8. 19	徳島	30	49. 8. 23
広島	27	49. 8. 25	岡山	24	49. 8. 25
小樽	25	49. 9. 16	函館	25	49. 9. 16
熊本	27	49. 10. 24	新潟	24	49. 11. 8
四日市	20	49. 11. 21	岐阜	20	49. 12. 8
門司	29	50. 1. 12	仙台	33	50. 1. 30
浜松	20	50. 2. 6	高松	40	50. 3. 9

金沢	32	50. 3. 20	旭川	36	50. 3. 29
静岡	28	50. 4. 20	長崎	30	50. 6. 9
盛岡	21	50. 7. 25	釧路	25	50. 10. 2
郡山	28	50. 10. 30	松山	30	50. 12. 3
室蘭	31	50. 12. 15	帯広	19	50. 12. 28
和歌山	35	50. 12. 28			

公職追放者を会員として認めるか否かが、大きな問題点でしたが、経済界における公職追放者を会員として認めないならば、クラブとしての体をなさないと言う日本側の主張が受け入れられたため、日本のロータリーは戦前からの指導者を失うことなく再出発することができたのです。ただし、日満ロータリー連合会の設立に大きな活躍をした芝染太郎の名前は、東京クラブの会員名簿にはありません。

R I 脱退中もロータリー例会そのままの非公式例会を続けていたことが大きな評価を受け、クラブ歴、個人歴共に、この期間を含めることが認められることになりましたが、R I 復帰に際して、戦前の日本のロータリーの強引な手法を牽制する意味から、次の条件が付けられました。

- (1) 離脱中の七曜会の解散
- (2) R I の定款・細則の厳守
- (3) R I への義務の完全履行

更に、「各クラブはそれぞれR I に直結しているので、クラブが地区や国単位で固まって行動を起こさない」ことを誓約して、戦後の日本のロータリーは歩み始めます。

日本ロータリーの推移			
年度	地区数	クラブ数	会員数
1950	1	64	2394
1960	7	445	18,619
1970	17	1,068	52,940
1980	24	1,537	84,605
1990	30	1,977	115,103
2000	34	2,291	119,250
2010	34	2,302	91,673

戦後の日本ロータリーの発展は目覚ましく、1地区から34地区に、クラブ数も64から2300に伸びました。会員数は2000人から12万人近くにまで増えましたが、1997年を境にして減少気味である点が、いささか心配です。

日本ロータリーの歴史については、RI 脱退と戦災の影響で、現在残っている資料が極めて少ないのが実情です。

米山記念館の資料室で、1971年に発行された「日本ロータリー50年史」を作成する際に原始資料として使用したと思われる、「日本ロータリー史」「日本ロータリー年表」という表題のついた謄写版刷りの古い文献を発見しましたので、その内容と東京ロータリークラブの古い資料を参考にして、本書を書き上げました。

本書を通じて、日本の先達ロータリアンの、ロータリー運動に対する真摯な取り組みを思い起こすと共に、今後のロータリー・ライフに役立てていただけましたら幸甚です。

参考文献

ロータリー日本 50 年史	日本ロータリー史編集委員会
国際ロータリー日本 50 年史稿	直木太一郎
われらのつどい	直木太一郎
日本ロータリー史	著者不詳
日本ロータリー年表	著者不詳
福島喜三次伝	有田ロータリークラブ
The History of the RC of Tokyo	東京ロータリークラブ
50 年のあゆみ	東京ロータリークラブ

なお、写真は上記文献の中から転載させていただいたものが含まれています。